

元気で躍進 地域経済

ミエラボ(三重化学)で開講

松阪市 ハンズオン西村ゼミ第1回

松阪市産業支援センター(中津平一センター長)は10日午後6時半から、同市大口町の三重化学工業(株)本社のミエラボで、2022(令和4)年度中小企業ハンズオン支援事業の「西村ゼミin松阪2022」公開ゼミ(公益財団法人三重県産業支援センター共催)の第1回を開講。昨年度はオンラインで開催したが、受講者も1カ所に集まって開くのは3年ぶり、地域の中小企業経営者ら約20人が参加した。



ミエラボの作業スペースで受講者らを前にプレゼンする山川社長＝大口町の三重化学工業で

1年間伴走支援するものとして生まれた「ミエラボ」で全5回の講座の第1回が開かれた。

同ゼミは、公開審査会

で採択から漏れた応募企業に対しても、審査委員長の西村訓弘・国立大学法人三重大学大学院地域イノベーション学研究所教授(57)が事業計画のブラッシュアップを手助けしようとして、18(同30)年度から始まった。

この日も、採択された(有)丸井食品三重工場の西山典孝代表取締役専務(38)を含め、4人の応募者が参加。冒頭であい

さつした竹上市長は「今はがむしゃらにやってもりたい。ただ、飛躍するには発想を変えないといけない。それを西村先生が教えてくれる」とエールを送った。

続いて西村教授が講義。「自ら持っている力を引き出すという感覚で、このゼミに参加してほしい。僕に批判されたと思わないで、成長のために気付いてほしい」と受講の心構えから話し始めた。

次に三重化学工業の山川大輔代表取締役社長(44)が「先輩」の立場でプレゼン。まずミエラボについて説明した。二つの

意味があり、副業・兼業であったり県外にいたりしながら同社で働ける「新しい働き方の仕組み」として一昨年7月に開始し、今年2月に「異業種や地域の人らとセッションする場」として新本社の一角に設けられた。

山川さんは「思いを強く持って持続していければ願いはかなう。うまくいかないのは自分の願いが弱いのかなと思う。ハンズオン事業がターニングポイントとなり、多くの人と出会って取り組んだことが発展していった。その集大成がこのミエラボの仕組みだと思っている」と話した。